



小島友実の あの馬の STORY



2023年10月21日・東京 初勝利のウイナーズサークル

サミアド

今回の主役は竹内正洋厩舎に所属するサミアドです。2023年1歳馬募集の特別提供馬でしたから、注目している方も多いのではなごうか。サミアドは以前、グリーンフォームに所属し、ムササビで2勝したルヴァンヴェールの半弟。この馬も竹内調教師が管理しています。

「サミアドを最初に見たのは1歳の夏頃です。ルヴァンヴェールは体高が低くて詰まった体型でしたが、この馬は父が変わりつつあって、バランス的に兄と違うなという印象でしたわ。兄よりは距離の融通が利きそうだと感じました」

サミアドのデビュー戦は昨年9月10日の中山ターフ1800m戦。2番人気で支持されたものの、13着でした。

「入厩してきた当初は7千の緩さが強くて正直、速い調教をのんびり動けるかなと思っていました。それが調教を進めていくうちに、わりと楽に動いたんですよ。それで人気になったのだと思います。厩舎としても期待して送りだしましたからね。血統的にもターフ向きですし、手脚が長い体つきでした事から、1800mでデビューしました。レースではスムーズに先団に取りつゝ、事ができましたが、勝負所で動きまわれませんでした。結果的に距離的な部分もあつたと思いますが、一番は当日の書き込みが影響していたと思います」

2戦目となった10月8日の東京ターフ戦では距離を1400mに短縮しました。

「初戦後、乗っていた菅原明良騎手から、『距離はもう少し縮めた方が良さそうですね。』と話がありましたし、確かに兄弟たちを見ても、そこまで距離が持っていま

せん。ただサミアド自身は2000mを走れるほど、脚の回転が速いタイプではないです。だから、2戦目は東京ターフ1400mに向かいました」

その2戦目では逃げて2着、1気に着順を上げました。

「ゲートをスッと出て、楽に先手を取れました。ペースを落とせばから押し切てほしかつたんですが、最後に交わされてしまいました。まだ緩さがある分、キレ負けしたのかなという印象でしたわ。でも能力がある事がわかりましたし、現状は1400mくらいが良いと感じました」

そして3戦目となった10月21日の東京ターフ1400mで初勝利を手に入れました。

「このレースでもサミアドを決めてスムーズにレースが運ばれました。2戦目のタイム(1分27秒5)より3戦目の時計(1分26秒3)の方が良いですし、最後の3ハロタイムもメンバー中最速の36.9秒で伸びたので、やはり能力があると感じました。3戦目も走れば本物かなと思っただけで出たのですが、大型馬らしく使いなから体を動かせるようになってきたと感じるレースでした。まだ調教では7千の緩さがあり、良い姿勢で走れていない状況の中、レースで力を発揮できるのだから、結構良い感じまで行けたのかなという印象を持ちました」

しかし、この後に左後肢球節部の第一趾骨にひびが入り、全治まで6〜9カ月との診断で、休養に入りました。

その後、怪我は順調に回復。4月12日に帰厩しました。

「休養中、牧場へ何度も見に行きまし

た。体型が崩れたり、太る事が全然ありませんでしたわ。完全に調教を休んでも体が崩れないのは良い馬の特徴でもあります。帰厩後、調教の動きも強度を上げていく度に良くなっていきました」

そして、サミアドは5月12日の東京ターフ1400m戦で無事にレースへ復帰。結果は11着でした。

「休養明けを感じさせない状態でしたが、新馬戦も結果が出なかつた事から叩いた方が良い馬なのかもしれない」

竹内調教師が改めて、サミアドの印象を伺いました。

「長所はゲートの出が良いことです。安定したスタートを切れると、競馬の組み立てが楽になりますから。あとは、当初に比べれば良くなってきたものの、まだ7千に緩さがあります。その中でここまで走れているので、今後の伸びしろは大きいと感じます。緩さなどは時間の経過とともにしつかりしていくでしょう」

最後に、メッセージを頂きました。

「馬房ではとても大人しく、ちゃんやだつた兄のルヴァンヴェールとは全然違います(笑)。サミアドの現状の能力を発揮できれば、1勝クラスはもちろんな。勝クラスも突破してなれると思います。そして筋肉のつき方や体が成長するなどの変化があれば、さらに楽しんでみたいですね。怪我に注意しながら上のクラスを目指していきますので、応援よろしくお願ひします」

4戦目の後は状態に問題がなく、続戦する事になったサミアド。復帰2戦目の変わり身に期待しています。

profile

競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近では地方競馬場の馬場取材も行っている。